

#### 新型コロナウイルス感染症と人口問題

現在、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は世界的大流行（パンデミック）を引き起こし、感染者や死者が急増するなど、状況が深刻化しています。また大恐慌にも匹敵するほどの経済活動へのダメージを与えることが懸念されています。4月16日現在、ジョンズ・ホプキンス大学のコロナウイルス・リソースセンターの推計では、世界中で感染が確認された人が2,064,668人、SARS-CoV-2（COVID-19という疾患の原因ウイルス）を原因として亡くなった人が137,124人となっています<sup>i</sup>。日本の場合には、4月15日12:00時点で、PCR検査で感染が確認された人が8,100例、亡くなられた方が119人、退院者が901人となっています。

今回のCOVID-19は、老若男女誰でも感染する可能性があり、悪化した時にそのスピードが速いという点で、大きな恐怖を引き起こしています。そして、その対応には相当な緊急医療の体制が必要となり、患者数が急増する中で医療崩壊の危機に直面しています。一方で、マスクの着用、手洗い・うがいなどの基本的な感染症対策の実施や、社会的距離の確保が効果的であり、またワクチンの開発も急速に進められています。

感染症の拡大は、人口問題と深く関わります。感染拡大は人口密度の二乗で増加すると言われ、20世紀における人口増加と人口密度の拡大が、大きな影響を与えていることとなります<sup>ii</sup>。疫学的には、今後より精緻な数理モデルによる検証がなされると思いますが、今回、武漢という人口約1,100万人の大都市で最初に発症・蔓延したことが、今回のパンデミックの大きな原因になったと言えます。

高い致死率から世界的に恐怖を引き起こした感染症にエボラ出血熱があります。このエボラ出血熱はアフリカで1976年から2019年3月時点に至るまで、30回を超える局地的な流行（エピソード）を繰り返しました。しかし2014年の西アフリカでの流行までは、そのほとんどが農村部で起こり、比較的人口規模が小さい地域での感染発生でした。

今回の場合、COVID-19の感染源となった武漢の人口ははるかに大きいもので、この感染源の母数となる人口規模の格段の差がパンデミックを招いた大きな理由ともなっています。そして、現代のグローバル化は、どこかで生じた問題は、常に自らの問題となることを意味します。この事実に基づいて、認識を変えていくことが必要不可欠になっています。

COVID-19がこれほどの恐怖をもたらしている一方で、大きな悲劇が生じているにも関わらず、関心を持たれていない問題があります。リプロダクティブ・ヘルス（RH）や家族計画といった人口問題への取り組みが不十分であるために、毎年、どのくらいの被害が出ているのか、ほとんど知られていません。

1994年のアメリカ合衆国のデータがどれほど汎用性があるかは検証はできませんが、これほどの大規模調査の結果が他にないことを考えると、現在の世界平均を表したものとして、この資料を援用したいと思います。ここで注目すべきは、望まれた妊娠による出生、望まれない妊娠による出生、中絶の比率です。それぞれ50.4%、23%、26.6%となっています。これは、受胎した命の約半数が望まれてこの世に生を受け、残りの約半数が望まれないままこの世に生を受け、さらにほぼ同数が中絶という形で命を失っていることを示しています。

表 1994 年調査に基づく、アメリカ合衆国における望まれた出生・望まれない出生・中絶件数内訳<sup>iii</sup>

年齢	実数	望まれた出生		望まない出生		中絶など	
		実数	割合 (%)	実数	割合 (%)	実数	割合 (%)
15 以下	25,100	4,593	18.3	8,333	33.2	12,174	48.5
15-19	781,900	172,018	22.0	333,871	42.7	276,011	35.3
20-24	1,479,500	613,993	41.5	387,629	26.2	477,879	32.3
25-29	1,405,200	847,336	60.3	241,694	17.2	316,170	22.5
30-34	1,111,400	743,527	66.9	162,264	14.6	204,498	18.4
35-39	482,400	285,581	59.2	86,350	17.9	110,952	23.0
40+	98,300	48,462	49.3	17,596	17.9	32,242	32.8
	5,383,800	2,715,509	50.4%	1,237,738	23.0%	1,429,925	26.6%

数字の遊びでしかありませんが、この比率に国連人口部の統計データ<sup>iv</sup>を当てはめて単純計算してみると、2020 年から 2025 年までの推計に基づけば、毎年の平均出生数が 1 億 3953 万人、その内、望まれてこの世に生を受ける子どもが 9,581 万人、望まれないでこの世に生を受ける子どもが 4,372 万人、中絶で失われる命が 5,057 万人ということになります。人口の分野では、毎年このような悲劇が起こっているのです。

COVID-19 は、「いつ自分に降りかかってくるかわからない」という点で恐怖をもたらしています。一方で、この望まない妊娠・中絶の問題は、恐らく「私は関係ない」というところから無関心が生じ、どれほど大きな問題であっても、社会的な関心になっていないと言えます。

COVID-19 後、世界は大きく変質するでしょう。感染症に関して“他人事”が存在しないことが、身に染みて理解されることとなります。しかしこれは、環境問題も人口問題も同じです。いくら武器を用意しても、国が守れないことも理解されていくでしょう。そして、人口問題は、短期間では変化が実感できませんが、数十年という時間の幅で見れば、決定的な影響を与えます。持続可能な開発目標 (SDGs) で明確に示されたように、この地球の中で相互依存していることを強く意識し、その視点から合理的な選択がなされていくことが必要です。

COVID-19 対策で、否応なく社会的距離を取らざるを得なくなった今、テレワークを前提とした仕組みが作られていくでしょう。そして今後 AI シンギュラリティの発生によって、おそらく生産と労働の分離が加速されることになり、資本主義革命以上の大きな変革を生みだすでしょう。情報革命がもたらした完全自由市場の中で、GAFA (グーグル、アップル、フェイスブック、アマゾン) に代表される富の寡占化が進みましたが、その富の源泉である“健全な消費者”がいなくなるかもしれないということです。そして、“勤勉に働くことで、それなりの生活ができる”、という近代を支えた規範が崩壊すれば、健全な社会規範が失われ、社会の無秩序化が生じる可能性があります。

いろいろな意味で、COVID-19 は私たちの社会に変革を迫っています。この災厄を逆手にとって、SDGs を達成するための、新しい社会づくりに立ち上がることが必要なのだと思います。

\*\*\*\*\*  
 バックナンバーはこちらからご覧いただけます ☞ <http://www.apda.jp/topics.html>



国際人口問題議員懇談会 (JPFP) 事務局  
 (公財) アジア人口・開発協会 (APDA)  
 TEL: 03-5405-8844  
 FAX: 03-5405-8845  
 E-mail: [apda@apda.jp](mailto:apda@apda.jp)  
 Website: <http://www.apda.jp>

JPFP 入会をご希望の方は、[apda@apda.jp](mailto:apda@apda.jp) までご連絡くださいますようお願い申し上げます。  
 尚、本ニュースレターの配信停止をご希望の方は [apda@apda.jp](mailto:apda@apda.jp) までお願いいたします。

<sup>i</sup> <https://coronavirus.jhu.edu/map.html>  
<sup>ii</sup> <http://vege1.kan.ynu.ac.jp/forecast/COVID-19/COVID-19.htm> (外来生物の分布拡大予報(横浜国立大学環境情報研究院 小池研究室内))  
<sup>iii</sup> 出所: Stanley K. Henshaw, Unintended Pregnancy in the United States, pp.24-46, "Family Planning Perspectives", Volume 30, Number 1, January/February 1998, Guttmacher Institute より再計算。  
<sup>iv</sup> <https://population.un.org/wpp/> (2020 年 4 月 9 日)